

まちづくりワークショップ成果報告書

研究日時 平成20年3月8日(土)

13:30~16:00

場 所 総合体育館研修室

1 グループ名 都市安全グループB

2 研究成果 別紙のとおり

3 グループメンバー

(1) 公募住民(4名)

佐々木年郎 長岡平治 長岡和子 西沢英司

(2) 団体・機関(1名)

成田利光(災害対策協力会)

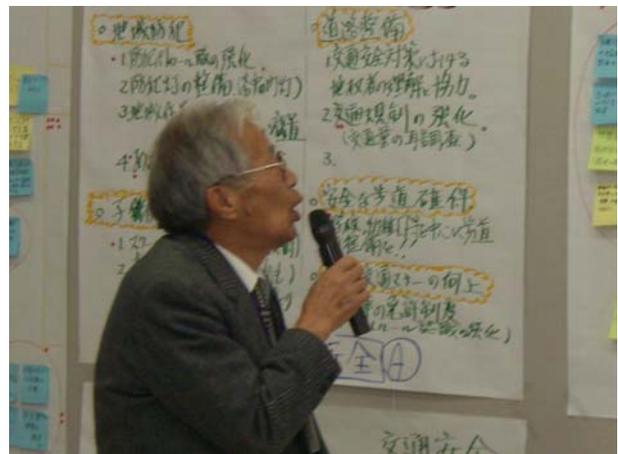
(3) 準備委員(4名)

瀬尾勇(ファシリテータ) 山崎泰男

千葉広 山田あつ子

(4) 職員(1名)

中島喜久男(自治防災係)



都市安全グループB

※タイトル右欄の数字は、相互評価ポイント

1 地域における災害対策 21P

各種災害対策の中長期的な計画を作る

向こう三軒両隣を知る

町内全体の避難場所のマップ作成

天災時の飲料水の確保

災いを要する時の窓口対応の設置

自分で責任をもつ

火災報知器や消火栓の位置を明示する

自治防災の強化

休耕地の有効利用（緑地の確保）

災害の時、FAXが不通になるのが心配

助けを必要としている人の把握

水害危険箇所の地図をつくる

防災情報の携帯などへのメール配信

災害時、防災無線の内容がわかるか心配

避難所の案内板に外国語（英語、中国語等）を加える。

2 歩道の整備 13P

道路改修要望の重点箇所マップ作成

歩道の整備の遅れ

ガードレールのない道路が多い

歩道の幅が狭い所が多い

通行安全度（マップ等）を作って、標識を建てる（危険度）

3 車道の整備 3P

道路が狭く消防車（特にハシゴ車）がターンできない

昔の農道がそのまま車道になり、歩行者の安全が確保されていない

住宅地の道路が狭い

4 救急対策 3P

消防の広域化（ネットワークの強化）

急病人が出た場合、公設機関が処置できない場合の補充組織をつくる

環境美化 4P

ゴミの不法投棄

電線不用で道路のみソーラー電力で動けるように

5 子供・弱者の安全 5P

子供の下校時、防災無線で一斉放送する（住民向け）

防犯パトロールの推進。自宅周辺で空き巣が多い

緊急時、手話通訳者が来ないで困った

日頃から弱者の見守り

町の活性と不安

三芳パークিংのフルインター化の可否について

その他

ワークショップと同様に行政の連携におけるシステムの充実